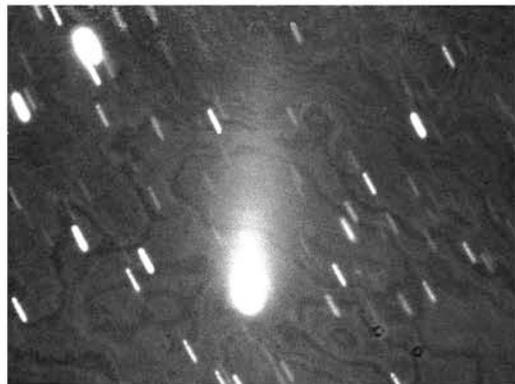




# 天文台だより

銀河の森天文台  
2006 春号  
Vol.31

## シュワスマン・ワハマン第3周期彗星がやってくる！



この春、シュワスマン・ワハマン第3周期彗星(73P/以下SW3彗星)が5年ぶりに地球へ接近します。SW3彗星は、1930年5月2日にドイツ・ハンブルグ天文台のA.Schwassmann(シュワスマン)とA.A.Wachmann(ワハマン)の2人によって発見されました。周期は約5.3年。2006年5月12日には、前回2001年1月の回帰時(約1.8天文単位)よりも遙かに近い、地球から0.08天文単位(約1200万km=地球と月間の距離の約30倍)の距離まで接近します。しかし、最接近時は満月期前後のため、月明かりの影響が少ない4月末から5月初めにかけてのゴールデンウィークが見頃になります。肉眼でも見えるぐらいの明るさ(3等級程度)になると予想されているので、これからの観測が大変楽しみな彗星です。

シュワスマン・ワハマン彗星第3周期彗星(73P)

2006年2月24日 2:28~2:57

115cm大型望遠鏡(F8.0) 冷却CCD 5分×5 トリミング

### 館長コラム「第十惑星」

水金地火木土天海冥。長年、太陽系の惑星を太陽に近い方から順にこう呼んできました。ところが最近、アメリカのパロマー天文(山下館長)台で新しい星が発見されました。いろいろの愛称で呼ばれているようですが、今のところの正式名称は2003 UB313です。太陽からの距離は冥王星の外側で、大きさは冥王星より若干大きい。そこでこの星を太陽系の第十惑星と呼ぼうという提案があります。冥王星が惑星ならこれも惑星だというわけです。ところが冥王星の大きさ(半径)は地球の衛星である月の3分の2しかない。大惑星というものは太陽からの距離のある範囲を占めているのに、冥王星の軌道は一部、海王星の内側に入り込んでいる。そのため冥王星を惑星と呼んだのがそもそも間違いではなかったかという議論もあります。どう決着するかわかりませんが、水金地火木土天海になる可能性があります。その場合、冥王星の地位は大きな小惑星といったところです。



天文台HPの「天文ギャラリー」の中で、大型望遠鏡で観測した「2003 UB313」の画像を見ることができます。

## 木星・土星が 夜空で共演！



土星に続き、春から木星が見頃を迎えます。りくり望遠鏡で見ると木星のしま模様がはっきりわかります。土星もまだまだ明るく見えています。是非ともこの春、太陽系2大惑星を、ご覧ください。

### ☆星のトリビア「彗星と流星群」

ほうき星(彗星)と流れ星は、夜空のアクセサリ。皆さんは、どちらがお好みでしょうか？

さて、「〇〇座流星群」というと、流れ星が多い時期のこと、〇〇座付近から流れる流れ星が多いのでそう呼ばれています。実はこういった流星群の流れ星のふるさとは、彗星なのです。彗星は氷や小さな岩石・砂粒でできています。彗星が太陽に近づいてくると、太陽の熱によってその表面が蒸発し、太陽からの放射圧と太陽風に押されて、太陽と反対側の方向に彗星の尾が伸びます。つまり、彗星は塵をまき散らしながら太陽の周りを回っているのです。そうすると、彗星が通った軌道には、塵がたくさん漂っていることになります。そうして、この塵のたくさんある軌道を地球が横切ったとき、大量の塵が地球に落ちてきて大気との摩擦熱で燃えて光るのが流れ星なのです。この春、接近するSW3彗星は、5月中旬から6月初めのうしかい座α流星群の母彗星としても知られています。(村)

## 暦表 (陸別町)

	日の出	日の入	月齢	月の出	月の入
4月 1日	5:05	17:54	2.7	6:13	21:40
4月 15日	4:40	18:11	16.7	19:57	5:06
5月 1日	4:15	18:30	3.2	6:02	22:50
5月 15日	3:58	18:46	17.3	21:16	4:43
6月 1日	3:44	19:02	4.9	7:57	23:21
6月 15日	3:40	19:11	18.9	22:21	6:52

# 天文行事&暦

## 4月

- 5 清明(24節気:太陽黄経15°)
- 9 水星が西方最大離角  
(光度:+0.3等, 離角:27° 46')
- 14 ○満月
- 17, 18 天文台特別開館
- 20 穀雨(24節気:太陽黄経30°)
- 26-5/7 町民無料観望会
- 26-5/7 木星・土星&彗星観望会
- 28 ●新月

## 5月

- 4/26-5/7 町民無料観望会
- 4/26-5/7 木星・土星&彗星観望会
- 1, 2 天文台特別開館
- 6 立夏(24節気:太陽黄経45°)
- 12 SW3彗星(73P)が地球と最接近
- 13 ○満月
- 15-26 天文台メンテナンス休館
- 21 小満(24節気:太陽黄経60°)

## 6月

- 6 芒種(24節気:太陽黄経75°)
- 12 ○満月
- 21 夏至(24節気:太陽黄経90°)
- 21 水星が東方最大離角  
(光度:+0.6等, 離角:24° 56')
- 26 ●新月

## 春のイベント情報 !!

### ☆木星・土星&彗星観望会

夜空に輝く2大惑星、木星・土星を中心にこの時期見ることができる様々な天体を観望します。また、5年ぶりに回帰するシュワスマン・ワハマン第3周期彗星も合わせて観望します。

開催日時: 4月26日(水)~5月7日(日)

説明会: 午後8時から(土曜・日曜・祝日のみ)

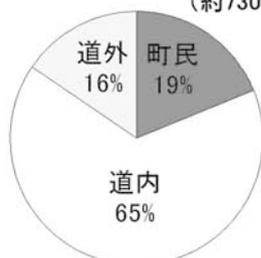
### ☆町民無料観望会

4月26日(水)~5月7日(日)の期間、町民の皆さんへ天文台の無料開放を行います。団体、サークル活動の一環としての来館も是非どうぞ。

### 「天文台あれこれ」-コテージ村編-

天文台までの道の途中にはコテージ村が建設されています。平成11年8月オープンで全7棟、年間約5,000人のお客様が宿泊されています。平成16年度は町内約1,200人、道内約3,300人、道外からも500人程のお客様が宿泊されています。平成18年度は、コテージ村内にユースホステル形式の宿泊施設もオープン予定です。更なる宿泊者の増が期待されます。(幡)

H16年度 コテージ村利用棟数割合  
(約730棟/年)



銀河の森コテージ村  
6~10人用(全7棟)  
18,000円/1棟~  
年中無休  
陸別町宇遠別  
TEL:0156-27-4040  
FAX:0156-27-4041



4月21日惜しまれつつも

銀河線廃止

7つの星(市や町)を結び、みんなの心にとくさんの思い出を残してくれた銀河線、ありがとう!

### 「天文茶話」-星の一生-

昔と比べ人は随分と長寿になりましたがいずれは皆等しく寿命を迎えます。夜空に輝く星々はいつとも変わらぬ美しさ故永遠に輝き続けるようにも見えますが、星の世界もいずれは寿命を迎え皆消えていきます。星は星雲と呼ばれるガスの塊から誕生し、太陽程度の一般的な大きさの星で約100億年という寿命があります。太陽の年齢は今50億歳。人生に例えるならちょうど折り返し地点なのです。若い星は高温で青白く輝き、年老いた星は温度が下がり赤く輝きます。夜空を見上げるとさまざまな年齢の星々が輝いています。星は一生の最後にガスを放出して消えていきますが、それでおしまいというわけではなく、宇宙空間に漂うたくさんのガスは再び寄り集まり、やがて新しい星の誕生の材料へとつながっていきます。宇宙ではこのように星の輪廻が繰り返されています。星の一生に比べると人生はまるで一瞬の輝きのようですが、夜空を見上げていると時の流れなど忘れてしまいますね。(寛)

### 天文台からのお知らせ

- ☆ 4月より開館時間が、14:00~22:30となります。(昼間14:00~18:00、夜間18:00~22:30)
- ☆ 4月17、18日、5月1、2日は、月・火曜日ですが特別開館します。
- ☆ 5月15日(月)~26日(金)は、天文台メンテナンス休館となります。

発行・編集: りくべつ宇宙地球科学館(銀河の森天文台)

〒089-4301 北海道足寄郡陸別町宇遠別 TEL: 0156-27-8100 FAX: 27-8102

URL: <http://www.rikubetsu.jp/tenmon/index.html>

E-mail: [ginga@rikubetsu.jp](mailto:ginga@rikubetsu.jp)